

環境省・オフセット・クレジット認証運営委員会
(事務局:気候変動対策認証センター)御中

平成 22年 11月 24日

オフセット・クレジット(J-VER)プロジェクト登録依頼書

オフセット・クレジット(J-VER)制度における妥当性確認が終了しましたので、プロジェクト登録を依頼します。

プロジェクト名 ¹			
磐城造林(株)社有林における田人町旅人での森林吸収プロジェクト			
【依頼者】 プロジェクト代表事業者			
事業者名(フリガナ)	イワキゾウリンカブシキガイシャ		
住所	福島県いわき市勿来町関田宮前 36		
代表者氏名	小野 好郎	代表者役職	代表取締役社長
担当者氏名	小野 勝史	担当者 所属部署・役職	社長室 取締役
担当者 E-mail	zourin@jasmine.ocn.ne.jp	担当者電話番号	0246-65-4141
プロジェクト事業者・プロジェクト参加者			
プロジェクト事業者名			
プロジェクト参加者名			
オフセット・クレジット(J-VER)取得予定者			
事業者名(フリガナ)	磐城造林株式会社(イワキゾウリンカブシキガイシャ)		
	以下のうち当てはまる項目に☑ <input checked="" type="checkbox"/> 本プロジェクトのプロジェクト代表事業者である。 <input type="checkbox"/> 本プロジェクトのプロジェクト事業者である。 <input type="checkbox"/> 本プロジェクトのプロジェクト参加者である。		
妥当性確認機関			
妥当性確認機関名	SGS ジャパン株式会社		

¹ プロジェクト名は、抽象的な表現を避け、「〇〇県△△事業者による□□（排出削減技術）を用いた温室効果ガス排出削減事業」のように、先にプロジェクト実施場所やプロジェクト事業者名を入れる等により、第三者に事業内容が伝わりやすいものとしてください。但し、事業の愛称やキャッチコピーをサブタイトルとしてつけていただくことは可能です。

プロジェクト情報																																																																																																																				
プロジェクト概要 ²	<p>（具体的な内容を簡潔に記載すること。）</p> <p>【プロジェクトの目的・内容】</p> <p>【目的】 磐城造林株式会社は、福島県の南東部のいわき市の南部に位置し、100年前に地域水源の維持などを目的に設立され、その社有林 763ha のうちスギ・ヒノキを中心とした人工林 約 600ha において植林、下刈、除間伐、主伐と循環的森林整備事業を行ってきました。しかし、昭和55年をピークとした材価の低迷、さらに昨今の住宅不況によるさらなる材価の下落により森林整備事業の経営環境は大変厳しい状況下におかれております。</p> <p>本事業の目的は、植林～間伐、主伐と循環的森林整備を持続させていくことにより CO2 の吸収に貢献できる森林づくりをおこなっていくこと、さらに CO2 の吸収量をクレジット化、販売することにより森林整備に再投資し、森林整備を持続させることです。</p> <p>【内容】 本事業の内容は、社有林内 約 400ha の森林において森林施業計画を基にした定性間伐を年間約 30ha～50ha くらい実施することによる CO2 の吸収量の増大を図っていくことです。また、森林経営の持続性を図るための地域森林整備計画に即した主伐、植林を実施することによる森林の更新による生物多様性の維持、その森林のさらなる CO2 吸収力の増大を図ります。</p> <p>プロジェクト対象地の林分構成は次の表1の通りです。</p> <p>プロジェクト対象森林における林分構成 単位:ha 表 1</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; text-align: center;"> <thead> <tr> <th rowspan="2">年齢</th> <th colspan="3">針葉樹</th> <th colspan="2">広葉樹</th> <th rowspan="2">合計</th> </tr> <tr> <th>スギ</th> <th>ヒノキ</th> <th>カラマツ</th> <th>ク</th> <th>ナラ</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td>13.07</td><td>4.55</td><td>0.80</td><td>-</td><td>-</td><td>18.42</td></tr> <tr><td>2</td><td>2.09</td><td>8.72</td><td></td><td>0.20</td><td>0.14</td><td>11.15</td></tr> <tr><td>3</td><td>-</td><td>-</td><td></td><td></td><td></td><td>0.00</td></tr> <tr><td>4</td><td>-</td><td>-</td><td></td><td></td><td></td><td>0.00</td></tr> <tr><td>5</td><td>21.05</td><td>8.96</td><td></td><td></td><td></td><td>30.01</td></tr> <tr><td>6</td><td>19.43</td><td>18.69</td><td></td><td></td><td></td><td>38.12</td></tr> <tr><td>7</td><td>19.09</td><td>10.68</td><td></td><td></td><td></td><td>29.77</td></tr> <tr><td>8</td><td>69.00</td><td>13.10</td><td></td><td></td><td></td><td>82.10</td></tr> <tr><td>9</td><td>54.12</td><td>1.86</td><td></td><td></td><td></td><td>55.98</td></tr> <tr><td>10</td><td>73.16</td><td>1.28</td><td></td><td></td><td></td><td>74.44</td></tr> <tr><td>11</td><td>23.41</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td>23.41</td></tr> <tr><td>12</td><td>7.11</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td>7.11</td></tr> <tr><td>13</td><td>3.80</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td>3.80</td></tr> <tr><td>合計</td><td>305.33</td><td>67.84</td><td>0.80</td><td>0.20</td><td>0.14</td><td>374.31</td></tr> </tbody> </table>						年齢	針葉樹			広葉樹		合計	スギ	ヒノキ	カラマツ	ク	ナラ	1	13.07	4.55	0.80	-	-	18.42	2	2.09	8.72		0.20	0.14	11.15	3	-	-				0.00	4	-	-				0.00	5	21.05	8.96				30.01	6	19.43	18.69				38.12	7	19.09	10.68				29.77	8	69.00	13.10				82.10	9	54.12	1.86				55.98	10	73.16	1.28				74.44	11	23.41					23.41	12	7.11					7.11	13	3.80					3.80	合計	305.33	67.84	0.80	0.20	0.14	374.31
	年齢	針葉樹			広葉樹			合計																																																																																																												
スギ		ヒノキ	カラマツ	ク	ナラ																																																																																																															
1	13.07	4.55	0.80	-	-	18.42																																																																																																														
2	2.09	8.72		0.20	0.14	11.15																																																																																																														
3	-	-				0.00																																																																																																														
4	-	-				0.00																																																																																																														
5	21.05	8.96				30.01																																																																																																														
6	19.43	18.69				38.12																																																																																																														
7	19.09	10.68				29.77																																																																																																														
8	69.00	13.10				82.10																																																																																																														
9	54.12	1.86				55.98																																																																																																														
10	73.16	1.28				74.44																																																																																																														
11	23.41					23.41																																																																																																														
12	7.11					7.11																																																																																																														
13	3.80					3.80																																																																																																														
合計	305.33	67.84	0.80	0.20	0.14	374.31																																																																																																														

【適格性基準との整合性】

条件 1:プロジェクト実施地は、いわき市森林整備計画に定める森林であり森林法第5条に該当する森林である。

条件 2:プロジェクト対象森林は、1990年4月1日以降に育成林において森林施業計画に基づき施業が実施されている。

条件 3:

いわき市により施業計画の認定を受けている。

施業計画の認定番号 19-48

(プロジェクト期間に係るすべての施業計画について認定番号を記載)

ープロジェクト期間内の認定番号は次のとおりです。

森林施業計画認定番号:12-1-1 平成12年3月17日

森林施業計画認定番号:14-74 平成14年5月13日

森林施業計画認定番号:19-48 平成19年4月4日

FSC 森林認証を取得、FSC の認証制度に則り管理されている森林である。

FSC の認証森林では、伐採後は森林の健全性の確保のためできるかぎり速やかに植林することとしている。

-2009年(平成21年)1月12日に取得 認証No. SGS-FM/COC-005691

資料 3-C-1 FSC FMにおける認証書を及び 3-C-2 磐城造林株式会社社有林における FSC 森林管理の公開資料 P-4 「環境保全への配慮」を参照。

【法令遵守状況】

関連する関連法令は次の通りです。

- ・ 森林・林業基本法
- ・ 森林法
- ・ 森林の間伐等の実施の促進に関する特別措置法(間伐等促進法)

【採用技術】

機器名	メーカー名	耐用年数	導入時期	備考
レベルトラコン S-25	牛方商会		昭和55年1月	面積測量機
レベルトラコン S-28	牛方商会		昭和60年9月	面積測量機
GPS 60CSx	ガーミン CSX60s	10年	平成19年7月	位置測定機
Vertex IV	ハゲルフ	10年	平成22年10月	樹高測定器
輪尺	中堀式(木製)	5年	平成21年1月	胸高直径測定器
測量縄 (間縄)	エスロン 50m	3年	平成21年1月	距離測定

【モニタリング方法】

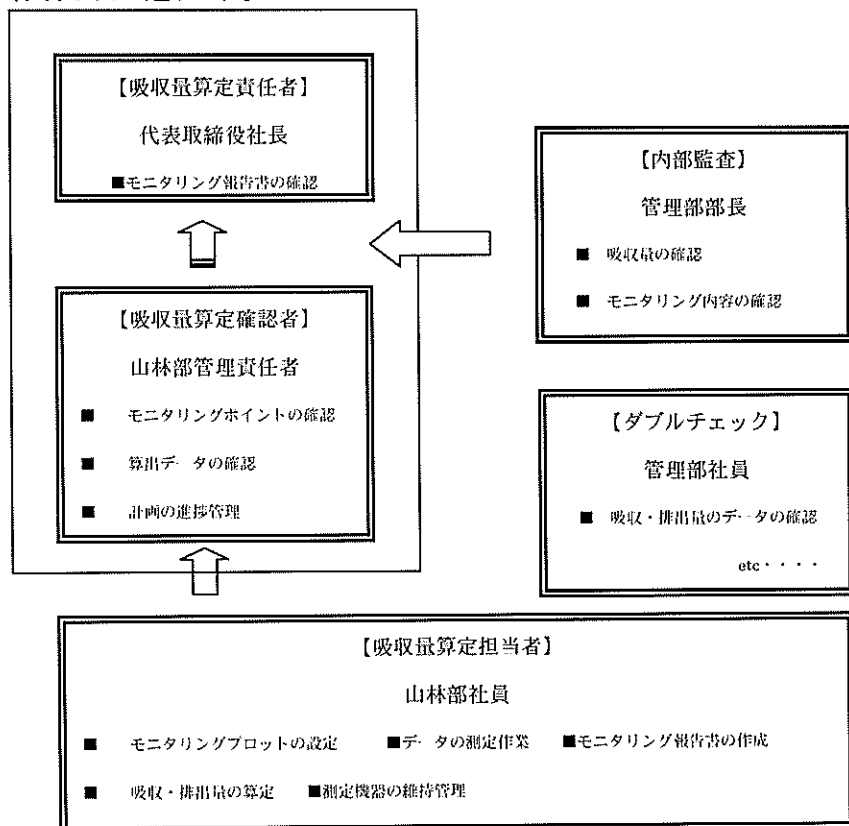
- ・ 活 動 量:実測(補助事業を実施の際に測量を行う)
- ・ 拡大係数:公表資料である「京都議定書 3 条及び 4 条の下での LULUCF 活動の補足情報に関する報告書」を利用
- ・ 収穫予想表:《スギ》福島県民有林林分材積表(スギ)平成 21 年 4 月 1 日改訂 P5 を使用。
県内における最新資料であり、利用するにあたり最も妥当性があると考えたため。
《ヒノキ》福島県民有林ヒノキ人工林収穫予想表等作成に関する基礎調査書、
付表-1 林分材積表 P36-37 を使用。
《カラマツ》福島県民有林カラマツ人工林収穫予想表等作成に関する基礎調査書、
付表-1 林分材積表 P38-39 を使用。
《広葉樹》広葉樹(ナラ類、クスギ)人工林の賦存状況と今後の利用 の P24 を使用。
ヒノキ、カラマツ、広葉樹いずれの場合も県内の資料として最も一般的資料であったため。

【GHG 算定式の方法論への準拠性】

R002Ver3.1-森林経営活動による CO2 吸収量増大(持続可能な森林経営促進型プロジェクト)に関する方法論における算定式に準拠。

【モニタリング体制】

・モニタリング体制は次の通りです。



	<p>【QA / QC 体制】</p> <p>(1) 教育訓練 吸収量算定担当者は、モニタリングにおける手順や吸収量の算定基準についてモニタリング及び純吸収量算定・報告に関する知識等を継続的に普及させるために、手順書を作成し、モニタリング体制やモニタリングの手順、測定機器の維持管理方法、モニタリング報告書等の記載方法を明記する。本教育の実施は、その手順書により原則年1回、施業時期に行う。</p> <p>(2) 情報の保管 データの保管は、吸収量算定担当者が行い、検証機関が純吸収量の算定結果を再計算できるように、純吸収量を算定するために使用した全てのデータを文書化し保管する。 データの保存期間は、オフセット・クレジット(J-VER)制度利用約款の森林管理プロジェクト特約第2条に定める期間(平成 35 年 3 月 31 日)までとする。</p> <p>(3) データの確認 データの確認は、吸収量算定担当者が作成・チェック後、吸収量算定確認者が原則行う。その方法は、収集単位の確認、野外調査帳と算定ファイルとの突合せ、使用した係数等の妥当性の確認、他の関係データとの比較、経年的なデータ変化や林分間の比較、恣意的データ・はずれ値の識別などの方法で確認をする。</p> <p>(4) 内部監査 内部監査は、構築した体制や実施ルール・本ガイドラインにおいて要求されている事項に、組織の活動が適合しているか、あるいは効率よく機能しているかを確認する。データのモニタリング及び収集、純吸収量の算定、報告等の一連の報告プロセスの信頼性の維持・向上のために行う。これらのプロセスは定期的に行う。また、データのモニタリング及び収集、純吸収量の算定、報告、チェック等の一連の報告プロセスで発見された課題や問題点については、是正措置・予防措置等の必要な措置をとる。</p> <p>(5) 測定機器の維持・管理 測定の実施前に測定者は測定機器の点検作業を行う。使用後は、所定の場所へ戻し保管する。</p>
<p>プロジェクト 実施場所</p>	<p>(プロジェクト実施場所が複数ある場合は、全ての住所を表形式等で記述する。) プロジェクト実施場所は、1団地で3つの字名に分かれています。(施業計画は1つです。)</p> <p>①いわき市田人町旅人字弥太郎 1-1 (2林班、3林班、4林班) ②いわき市田人町旅人字明神石 1-2 (1林班、5林班) ③いわき市田人町旅人字男犬平1 (6林班)</p>
<p>プロジェクト 期間</p>	<p>2000年4月1日～2013年3月31日(13年 ヶ月)</p>
<p>クレジット 期間</p>	<p>2008年4月1日～2013年3月31日</p>
<p>プロジェクト 計画開始 届提出日</p>	<p>2010年10月25日</p>

妥当性確認終了日	年 月 日						
想定削減・吸収量	年度	2008	2009	2010	2011	2012	合計
	t-CO ₂	1,921	3,230	3,301	3,291	3,199	14,942
適用モニタリング方法ガイドライン	オフセット・クレジット(J-VER)制度モニタリング方法ガイドライン (森林管理プロジェクト用) ver. 1.7						
適用方法論	方法論番号	JRAM 002 ver.3.1					
	方法論名称	森林経営活動による CO2 吸収量の増大 (持続可能な森林経営促進型プロジェクト)					
ダブルカウントの防止措置							
ダブルカウントの防止の措置を講ずる事業者	(プロジェクト代表事業者と同一の場合は記入不要)						印
公的な報告・公表制度(判明している公的制度)	該当なし						
自主的な報告・公表対象(対象となるホームページ、環境報告書等)	<p>磐城造林株式会社の会社案内等において、次の内容を記載しダブルカウントの防止措置とします。</p> <ul style="list-style-type: none"> 当該プロジェクトの内容及び当該プロジェクトから創出される J-VER クレジットの発行量及び移転量を明記する。 環境に関わる付加価値の二重使用を防止する為、J-VER クレジットの売却後(J-VER 登録簿上で移転された時点)に当該付加価値を主張しないよう留意して記載する。 <p>また、当該プロジェクトに係る排出削減量及び吸収量に対して、他の類似した制度において認証取得を致しません。</p>						
備考欄							

該当なし

以上